

野草園の 主な催し物 スナツブ



プリザーブドフラワー教室



山野草の育て方教室



秋の野草園祭り
(ミニ新幹線運行)



星空を見る会



西藏王観察会

山形市

野草園だより

51号



フジバカマの蜜を吸うアサギマダラ

主な催し物(8月~11月)

- ◆絶滅危惧植物パネル展…………… 7/16㊥~8/21㊥
- ◆工作コーナー…………… 7/26㊥~8/21㊥
- ◆木工工作教室…………… 8/7㊥
- ◆花苗プレゼント…………… 8/11㊥祝
- ◆草木染め教室…………… 8/11㊥祝
- ◆星空を見る会…………… 8/11㊥祝・9/3㊥
- ◆写真撮影会…………… 8/27㊥
- ◆東南北3県ポタニカルアート作品展 …… 9/4㊥~22㊥祝
- ◆ポタニカルアート体験講座…………… 9/10㊥
- ◆秋の野草園祭り…………… 9/17㊥~19㊥祝
- ◆無料開放日(65歳以上)…………… 9/19㊥祝
- ◆プリザーブドフラワー教室…………… 9/24㊥
- ◆山野草の育て方教室…………… 9/27㊥
- ◆西藏王観察会…………… 10/1㊥
- ◆第23回写真コンテスト入賞作品展… 10/8㊥~11/23㊥祝
- ◆ハーブリース教室…………… 10/10㊥祝
- ◆焼き芋振舞い…………… 10/15㊥・16㊥
- ◆四季観察会③(紅葉と木の実)…………… 10/19㊥
- ◆写真コンテスト表彰式…………… 10/22㊥
- ◆ガーデニング教室…………… 10/29㊥
- ◆東北おし葉標本展…………… 11/1㊥~13㊥
- ◆早朝バードウォッチング…………… 11/5㊥
- ◆東北植物研究会大会…………… 11/12㊥・13㊥

※都合により日程・内容の一部が変更になる場合があります。

〈開園時間等〉

- ・開園時間/4月~5月 9:00~16:30
- 6月~8月 9:00~18:00
- 9月~11月 9:00~16:30
- ・休園日/毎週月曜日
(ただし、月曜日が祝日の場合はその翌平日)
(4月第3月曜日~6月第2月曜日まで無休)
- ・冬期間休園/12月~3月
- ・入園料/大人:300円 高校生以下:無料
- ◆団体割引(20人以上の場合)
大人:240円 高校生以下:無料

〈交通案内〉

- ・JR山形駅より山形交通路線バス西藏王・野草園行き
終点下車(約30分)
- ・山形自動車道蔵王ICより西藏王高原ラインを
蔵王温泉方面(約15分)
- ・国道13号より、県道53号經由または
市道三本木線經由(約10分)



シンボルマーク
原画 阿部功雲氏

「秋の七草」の一つとして植栽しているフジバカマ(花期:8月~9月)は、草丈が100~150cmになり、茎の先に淡紅紫色の小さな花をたくさん付けます。2裂した花柱の長い雌しべの筒状花が多数集まっています。9月になると、渡り蝶のアサギマダラがフジバカマの蜜を吸いにやってきます。この花の蜜には、アサギマダラの雄が成熟するのに必要な物質が含まれています。ここで十分蜜を吸ったアサギマダラは、南へ向かって長い旅を続けるのです。



夏から秋に咲く絶滅危惧植物たち

山形県のレッドデータブックを基にご紹介します。



花期：5月中旬～8月

オゼコウホネ スイレン科

名はオゼ(尾瀬)に咲くコウホネ(河骨)という意味です。「ひょうたん池」に群生しています。



花期：8月下旬～9月

カリガネソウ シソ科

名は、花の形が鳥の雁かりに似ているからで、全草に臭気があります。「ひょうたん池」の南西側に群生しています。



花期：7月下旬～8月

ビロードトラノオ ゴマノハグサ科

葉の両面にビロードのような毛が生え、花の集まりが虎の尾のようであることから名が付いたようです。「七草の庭」の南東側に生育しています。



花期：7月下旬～8月中旬

シデシャジン キンボウゲ科

細く裂けた花弁を、神前で使用する紙垂しでに見立てて、名が付けられたようです。「ミズバショウの谷」の東側にあるスギ林の中に生育しています。



花期：8月～10月

ヒメヒゴタイ キク科

日当たりの良い草原に生える2年草で、多数の筒状花が集まった紅紫色の花を付けます。名の由来は、ヒゴタイと似ている小さな花からのようです。「七草の庭」の南西側に生えます。



花期：9月～10月中旬

リンドウ リンドウ科

根は薬に利用され、漢方では竜胆りゅうたんと呼び、それを和音読みにして名が付けられたようです。「ミズバショウの谷」の東側にあるスギ林の中に生育しています。



ヤブカンゾウ (ススキノキ科)

茎頂に黄赤色の花を数個付けます。雄しべや雌しべも花弁状になり、いわゆる八重咲きになっています。



ホンカンゾウ (ススキノキ科)

国内では自生地はなく、茎を直立させ数個の花を付けます。黄橙色の花被片を上を開いて咲きます。



ノカンゾウ (ススキノキ科)

細長い剣状の葉で、花茎の先に橙赤色の花を数個付けます。



ヤマユリ (ユリ科)

花は強い香りがあり、6枚の白い花被片にたくさんの赤褐色の斑点と中央に黄色い筋があります。

夏の華麗な花 「カンゾウ」と「ユリ」の仲間たち

野草園の夏(7月～8月)は、カンゾウとユリたちが華麗な花を咲かせます。花は原則的に1本の雌しべと6本の雄しべ、そして6枚の大きな花被片を持っています。これらのカンゾウはワスレグサ属で、花は1日花(朝開いて夕方にしぼむ)です。



クルマユリ (ユリ科)

茎の下側に細長い卵形の葉が10枚ほど車輪のように輪生することから名が付けました。



コオニユリ (ユリ科)

橙色の花被片が外側へ大きく反り返り、内側に紫黒色の斑点がたくさんあります。オニユリと似ていますが、葉腋にむかごを付けません。



オニユリ (ユリ科)

橙色の花被片にはたくさんの黒紫色の斑点があり、それが強く反り返っています。葉の葉腋に黒いむかごを付けます。



オオウバユリ (ユリ科)

茎の上部に10～20個の黄緑色の長い花を横向きに付けます。花の咲く時期に根生葉が枯れてしまいます。

「秋の七草」の花たち

ピンク色のカワラナデシコと青紫色のキキョウ、そして黄色のオミナエシ

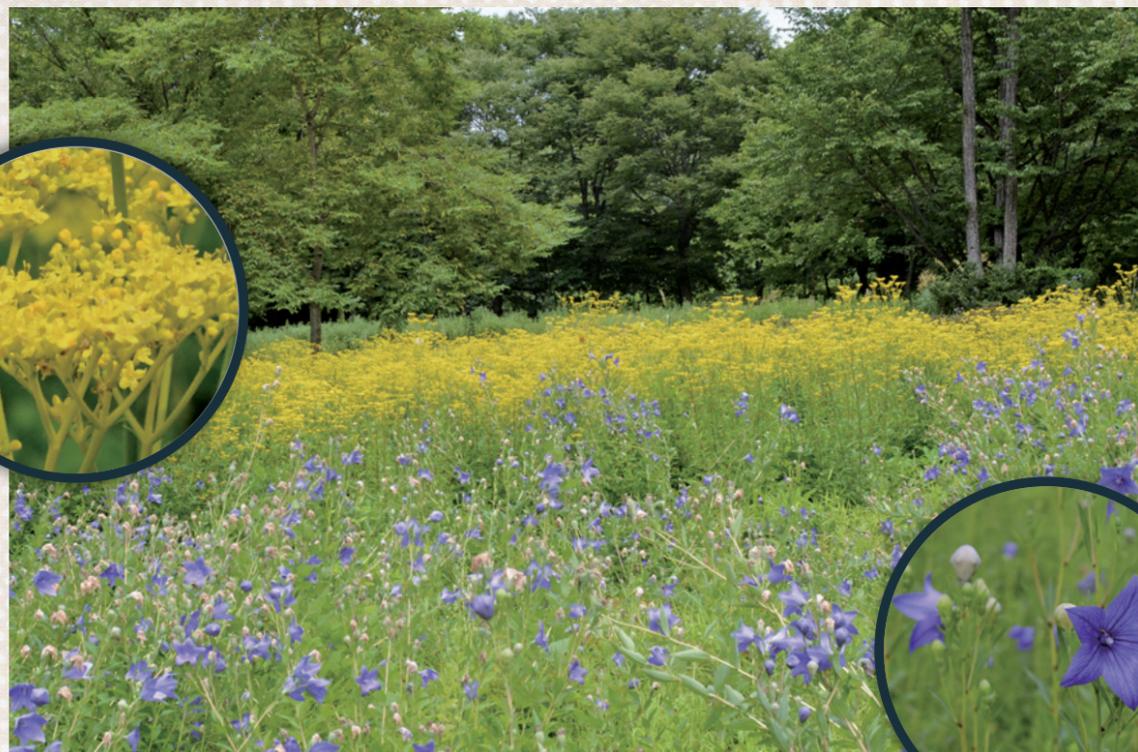


夏から秋(7月中旬～9月)にかけて、野草園の「七草の庭」には、秋の七草(キキョウ、カワラナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、ヤマハギ、クズ、ススキ)が咲き誇ります。最初に咲き始めるのはカワラナデシコとキキョウです。

カワラナデシコは草丈が低く日当たりの良い草地に咲きます。茎は上部で枝分かれして枝先に4～5cmの縁が細かく裂けたピンク色の可愛い5弁花を付けます。

キキョウも日当たりの良い山地や野原などに生える多年草で、茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を付けます。万葉集で山上憶良が詠んでいる「秋の七草」には朝顔の花が出てきます。これはキキョウのことだと言われています。全国的に自然に生育しているキキョウは減少しており、山形県でも絶滅の恐れがある植物の一つです。開花期間は7月中旬から8月下旬です。

オミナエシは草丈が80～120cmで黄色の小花を多数付けます。種子で増えるのはもちろん、地下茎を横に伸ばして増える栄養繁殖もします。そのために黄色い花がしばしば群生しています。また満開になると独特な匂いを放ちます。



新任園長雑記

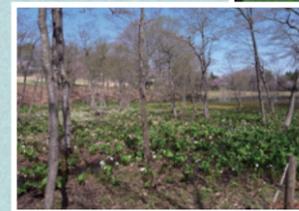
＜蔵王の里山・西藏王の魅力＞

野草園のゲートを抜ければ、爽やかな風・鳥のさえずり・木々の緑が五感を刺激し、そして園内を巡ればひっそりと咲く可憐な野草たちが、体と心を癒してくれます。

木々は4月初めにまだ寒々としていたのが、4月下旬には霞むような淡い緑となり、今は力強く生い茂っています。また花々は、神秘的なミズバショウ・西藏王を代表するオオヤマザクラ・可憐なヤマシャクヤクへと移りかわりました。日常生活では忘れてしまいがちなダイナミックな四季の移ろいを通して、野草園のテーマである「自然と人間の共生」を実感しています。

一人でも多くの方々に里山の自然の中で心浮き立つ時間を体験いただけるよう、ボランティア・スタッフ一同で、「自然と調和した園内整備」「最新の情報発信」「自然に親しむ企画」「心弾ませる案内」に取り組んでおります。

ぜひ足をお運びください。



8月下旬からは3つの七草も咲き始めます。

「秋の七草」の花たち

ヤマハギは、根元からたくさんの茎を出して分枝し、葉は細長い柄を持った3出複葉です。花は紅紫色の蝶形で、花柄が長く花が葉よりも外側に出ています。

ススキは茎の先端に長さ20～30cm程度の十数本に分かれた花穂を付けます。花穂は赤っぽい色をしています。それらはたくさんの小花穂からなり、その雄しべの葯がぶら下がっています。

クズは大形のつる状草本で葉は大きく3出複葉です。花は紅紫色で、下から順に開花します。根は太く多量のでんぷんを含んでおり、葛粉が採れます。



ヤマハギ



ススキ



クズ

花の美しさに魅せられるカメラマンたち



お客さんの中には花の写真を撮る方が多くいます。スタンドにカメラを取り付け被写体がぶれない様に撮っている方、望遠レンズを付けたカメラで遠くの花を撮っている方、中には花の蜜を吸う昆虫と花を撮っている方もいます。「花の美しさに魅せられた」「こんな形の花もあるのか」「神秘的な花に感動した」等のカメラマンたちの声を聞きます。9月1日(木)から22日(木)まで、第23回写真コンテストの作品を募集します。ふるって応募してください。

